

令和3年市長年頭所感

改めまして皆さん新年明けましておめでとうございます。

旧年中は皆様方には報道を通じて、市政の進展に格段のご支援を賜りましたこと、改めて御礼を申し上げたいと思います。

明けて、本年丑年ではありますけれども、新しい年を皆様のご健勝にて迎えられたこと、喜びを申し上げたいと思います。久しぶりの雪の中での新年でございました。私も自宅で新年迎えさせていただきましたが、飛騨高山らしい新しい年の迎え方だったのかなと、感慨ひとしおの新年でございました。特にコロナ禍ということでありましたので、年末から年始にかけてのいろいろな行事等が中止や縮小になっておりますものですから、久しぶりに年末年始を自宅で過ごしました。

皆様方にもご健勝で新年を迎えられましたことを、まずお慶び申し上げたいと思います。

昨年末に臨時の記者会見を開かせていただき、議会へ提出させていただく経済的な支援策等について発表させていただいたわけではありますが、今年年頭の記者会見に、それぞれお忙しいなか、お集まりいただきましたこと感謝申し上げます。

振り返りますと、いつも申し上げておりますけれども、去年はコロナに始まってコロナに終わったという年でありました。ただ去年の1月ここで記者会見をさせていただいた折には、これほどまでにコロナが深刻な課題となって社会、経済、政治に影響を及ぼすとは正直いって私も想像できずに、大変夢のあるといえますか、希望に満ちたお話をさせていただいたと記憶をいたしております。ちょうど八次総合計画の後期計画をスタートさせるという年でございましたので、皆様方にもその内容について、ある意味自信満々な発表だったのかなと思うのですが、今年はそういう明るい話題に触れることができないのが残念だとは思いますが、少し所感を述べさせていただきますのでお聞きいただければありがたいと思います。

今年は、コロナの現況を踏まえますと、先ほど申し上げましたように楽観視できない1年になるだろうと思っております。

すでに高山市内においても15名の方が感染されました。1日も早い回復をお祈りするわけではありますが、この感染の波は高山市内においても止めることができないのではないかなと想像いたしております。その意味において、今年は日本のみならず、この高山市も、「コロナとともに生きる年」ではないかと思っているわけでもあります。今日の首相の記者会見にもありましたけれども、来月からワクチンが接種されることになりました。当然ワクチンの接種は市町村がそれぞれ対応するようなことにもなっておりますので、その辺のことも含めてですけれども万全な体制を組んでいかなくはなりません、まずはお医者さん、医療関係それから高齢者関係ということでもありますので、すぐに全員がワクチン接種を受けるというわけにはいかない状況であります。そういう意味においても、まだコロナ禍というのは、今年1年は続くものであろうと考えております。大変厳しい環境の中でもありますし、従

来高山市が自信をもっておこなってきた海外のお客さまを日本にお迎えし、高山にお迎えするということが、今の世界での変異種の発生や世界の蔓延状況を見ると、今年中にまだ多くのお客さまを外国からお迎えできるような環境にはないと思っております。首相は今日の記者会見でオリンピックは東北地震の復活を世界に知らせる、あるいはコロナ禍をしっかりと収めてきたことを世界にアピールする事業として開催したいという意思を出されましたけれども、私は少し懸念を持っております。その意味において外国とのこれからの対応をどうしたら良いのかってことも課題になってくると思いますし、当分の間は期待できないだろうというふうに思っています。

それから、コロナ禍の新しい生活様式ということをやはり定着をさせていかなければなりません。昨年は見よう見まね、手探り状態での新しい生活様式の実践でありましたけれども、今年はその1年を踏まえてしっかりとした生活様式を変えていくという意識のもと、今後の施策を進めていかなければと感じているところでございます。

総括的に考えますと、先ほどコロナとともに生きるというふうに申し上げましたが、これからコロナ対策を進めれば進めるほど、人は個人（個）になりやすい。3密を避けるとか、五つの場面を避けるとか、やはり人と人との接触をなるべく少なくした生活様式を進めようとすれば、それは1人1人（個）に戻っていくというような流れが生まれてくると思います。そこで1人1人が個になっていくということは都市としての成り立ちも懸念されることでもありますし、地域におけるコミュニティの維持も危惧されることになります。ましてや1人1人の心の持ちどころといいますか、生き方というものが非常に閉鎖的になって生きがいや、色々な活動、例にとれば文化的な活動だとかスポーツ活動、こういうところにも影響を及ぼし、生き方そのものに市民の皆さん方のいわゆる自信というものも危惧されてくるようになるのではないかと思います。

そこで、「ともに」という言葉を使わせていただきましたけれども、今年はこの二つの柱で行政を進めさせていただきたいと思っております。

一つは、「コロナとともに生きる」という柱であります。この柱は四つの要素を持っていると思っております。

一つは新しい生活様式を市内で定着させていくと、すなわち個人の生活様式を定着させていく、更には行政執行のあり方も新しいものにしていく、社会生活環境これらをやはり新しい様式に変えていくということが今年1年の大きな課題の一つであろうと思っております。

二つ目は、感染防止を徹底するということでもあります。3密回避や五つの場面の回避、あるいはマスクの着用や消毒、さらにはそれらのことを疫学的に、エビデンスをしっかりと、行っていく必要があるだろうと思っております。

皆さまの思いが輻輳していますので、それを実証して、それに基づいた対応をしっかりとやっていく、そのためには専門家の先生方の意見等を重要視して対策をしていく必要があるだろうと思っております。

飛騨は医療が脆弱だと言われております。その意味においても、三市一村協力して、この医療体制の確立というのは非常に大事なことの一つじゃないかと思っています。

三つ目はやはりコロナハラスメントの防止であります。

現在15名の方が感染されましたが、感染された方が大変辛い思いをされている、あるいは事業者の方が大変お困りなられたというようなお話が聞こえてまいります。これはいわゆる風評被害というジャンルにも入るのではないかと思いますけれども、これらの謂れのない誹謗中傷等を防いでいって、感染された方も我々も同じ人なんだ、憎むのはコロナなんだという意識を持っていくことが大事ではないかなと考えております。そのためには、やはり正確な情報を市民の皆さんにお知らせしてくという姿勢をしっかりと持つ必要があると思っています。

四つ目は経済活動の維持であります。昨年末に緊急記者会見で新たな政策を発表させていただきましたが、やはり事業所支援策、これは適時に実施していく必要があるだろうと思います。これは、1回やればそれで何ヶ月も持つという話ではないと思っていますので、時代の流れの中で、事業所の皆さん方への支援策というのを適時打ち出していきたいと思っています。

さらに国や県の動向を注視してあらかじめ準備をする必要があるだろうと思っています。今回も東京都と3県の首都圏のいわゆる緊急事態宣言がこれから検討されるということでありますけど、それが実施されれば今度は愛知県や大阪府も波及してくると思いますし、岐阜県も今、医療危機事態宣言を発出していますが、経済における非常事態宣言も岐阜県も発出される可能性はないとは言えません。そのために発出された場合どういう対応をすべきかをしっかりと考えていきたいと思っています。また、対面の商売というのがコロナ禍ではできませんので、オンラインがポイントになってくると思います。経済活動を維持する上で必要なツールとして、オンライン、eコマースということをしっかりやっていきたい。これは、先ほど申し上げた海外からのお客様がお越しいただけないのなら、eコマースでしっかりと海外のお客様と繋がるということで経済をまわしていける、そんなことも考えていきたいと思っています。これが一つ目の柱「ともに生きる」であります。

2つ目の柱は「市民とともに持続可能な都市を創る」であります。持続可能ということはSDGsにも出されておりますが、社会、経済、環境、これを続けることができるということが大事であります。そのためには私どもは行政を携わっておりますので、健全財政を維持して効率的な行政運営を果たすということが大事なこととだろろうと思っています。以下の6つ事を進めたいと思っています。

一つは八次総合計画の実施計画を改めて再検討するという事です。昨年の方頭のご挨拶のときに八次総合計画が新たにスタートするという事で、実施計画等もお示しさせていただきましたが、そのときの状況と今の状況、経済的にも財政的にも大きく変わってきております。ご案内のように税収も相当落ち込む予想をされております。経済も急激に良い方向へ大きく変わっていく、盛り返していくということも想定できません。そういう意味において実施計画の実施時期も含めて再検討しないといけないということが一つ目であります。

二つ目は、従前実施してきた事業を検証して見直す必要があるのではないかと考えています。

三つ目は、それを動かす行政組織の見直し。更にはそれぞれ配置してある職員体制の配置基準等をしっかりと見直して、効率的な行政運営を進めていくということは必要だろうと考えています。

四つ目は、国もそうではありますがデジタル化の推進であります。効率化、あるいは利便性を促進するためにも、このデジタル化、特に高山市役所は遅れているという認識はあります。その意味において、今年2021年がデジタル化元年と言われるように、2022年になったとき、大きく変わった、前進したと皆様に感じていただけるようなデジタル化を進める必要があると感じています。

五つ目はICTの活用であります。先ほどから申し上げておりますが改善的な事務事業ができなければ、それに代わるツールが必要となります。その意味では効率的な行政運営を行うにあたって、ICTの利活用というのは大きい比重をしめると思いますので、これについても重点的に進めていかなければならないと考えております。

最後はSDGsの実践であります。八次総合計画はSDGsに基づいて立てさせていただいております。このSDGs、我々2030年までに何ができるのかそのために今何をしなければならないか一人一人の責任として一つ一つの自治体の責任として、このSDGsの実践、目標に向かって進んでいく必要があるのではないかなと考えているところです。

この1年をどう考えるかといえば、我慢の1年だと総括できると思います。来るべきコロナ終息を見据えて力を溜める年としたい。派手ではありません、非難も多く受けるだろうと思いますが、この1年は我慢して、その来るべき次のステップのために力を蓄えたいと思っています。

今年はいろいろ事業が予定されております。特に市制が施行されて85年の節目の年を迎えます。だからどうだということはございません。時は流れているわけですから、85周年であろうが86周年であろうがそれは変わらないのでありますけれども、5年という節目をもって過去を振り返り、新しいものを創っていくという、きっかけになる、それで85周年という年に意味があるのではないかというふうに思っておりますので、過去を継承し未来を創り上げるような、そんな市制85周年になるように職員一丸となって進めてまいりたいと思いますので、今後とも皆様方のご支援やご指導を賜ればと思います。

年頭にあたっての私の所感を申し上げさせていただきました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。